

1. リスクアセスメントは、どのようにやるのか

★ 「危険性又は有害性」と「危険源」（諸悪の根源）は同定

(1) 作業方法や機械設備の危険源のリスト表を作る。

【主な危険源例】高所作業、段差、高温物、回転物、鋭利なもの（箇所）等々。

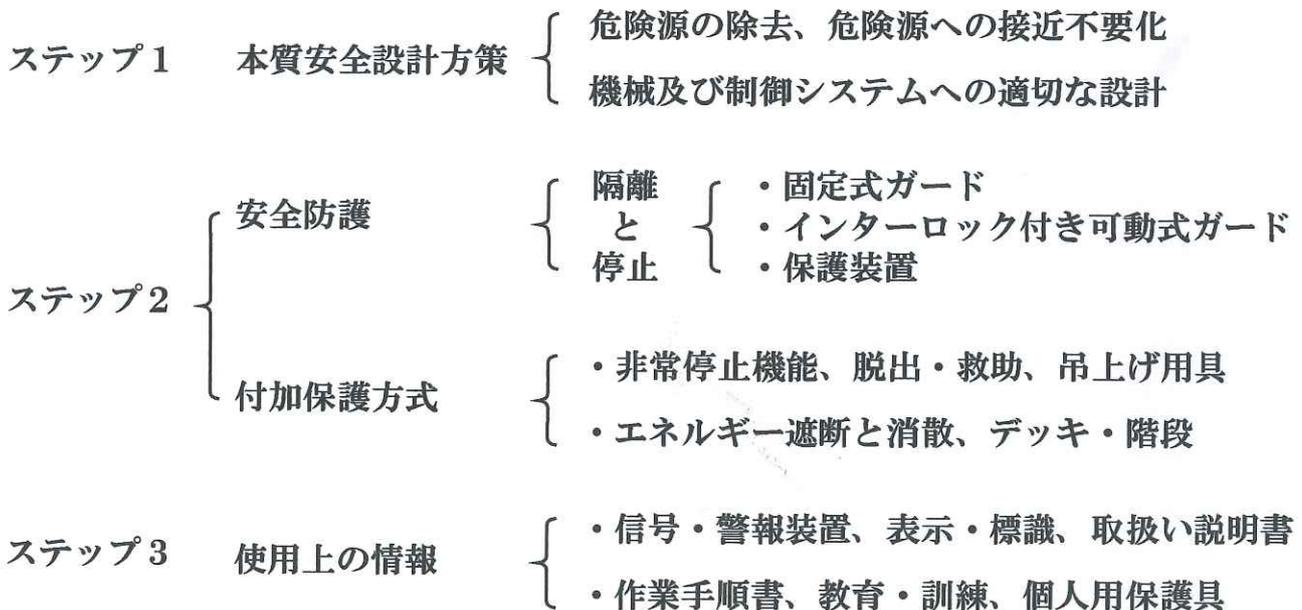
(2) 危険性又は有害性（危険源）の特定

危険性又は有害性（危険源）ごとに負傷又は疾病に至るプロセスを明らかにする。（災害ストーリーを描く）



2. リスク低減措置等の考え方を理解する

リスクアセスメント指針（抜粋）に沿って低減措置を行う。



3. リスクアセスメントと危険予知（KY）の違いとは

★ リスクアセスメントは、職場または作業の現状把握が主な目的。どんなリスクがあって、そのリスクは高いのか低いのか、高いものから優先的に危険源の除去低減措置を検討し災害を防止する、主に数値化する。このような現状を正しく事業者伝える手法。（事業者はお金を握っている、決裁者でもある）

★ 危険予知は、毎作業時に作業者の感性（危ないことを危ないと感じる）で現物を指差し、確認しながらその場で回避する行動である。（個人の感性に依存した手法なので限界がある）